

「乳幼児のアトピー性皮膚炎」の勉強会に行ってきました！

今回のお題

- ①0歳児からのお外遊びが大切！アトピー性皮膚炎は、都会病！
- ②食物アレルギーは本当に治るの？
- ③ケーキ食いたい！赤ちゃんの食物アレルギー、母乳中だけ食べたらどうする？
- ④卵アレルギーがあるけど、予防接種は大丈夫なのかしら？

お答え

- ①都会の子どもたちは、赤ちゃんの時から自然の中で遊べるのが少ない傾向があります。土遊びや、田舎の家畜のような、馬やにわとりとの触れ合いができないので、細菌に対する免疫が作れません。今は何でも除菌！の時代ですよね。清潔すぎる環境がアレルギーを起こしやすい体質をつくり、食物やハウスダスト、花粉などによるアレルギーを起こします。そのアレルギーの結果、アトピー性皮膚炎という症状がでます。田舎の子は、アトピー性皮膚炎が少なく、喘息の子も少ないそうです。
- ②成長すると治る子が多いです。たとえば、生後6カ月で卵アレルギーがある子の自然に治る割合は、3才で5割、6才で7割、9才で8割です。同じように、牛乳アレルギーは、3才で6割、6才で8割、9才で9割というデータがあります。両親にとっては、幼稚園や保育園、また小学校で給食をみんなと一緒に食べられるかしら？と、心配ですよ。でも、大丈夫です。子どものゆっくりした成長をあせらず見守っていきましょう。
- ③母乳育児中の赤ちゃんのための食事制限は、母親に非常に強いストレスになりますよね。美味しい食べ物がたくさんある世の中、本当に辛いです。でも、食べてしまった自分を責めないでください！もし、食べてしまったら、母乳は血液からできるので、1日たてば母乳には消えたと思ってください。え？1日母乳をあげない？それは、大変なことです。おっぱいトラブルが起こるかも、赤ちゃんも困りますよね。あくまでも、目安ですよ。
- ④予防接種で卵を使っているのは、はしかとインフルエンザです。強い卵アレルギーのある子は、必要な時期に受けられないのは困ります。今ではアレルギーのある子のために、数回に分けて行う方法があります。ですから、かかりつけ医や専門の先生とご相談下さい。

